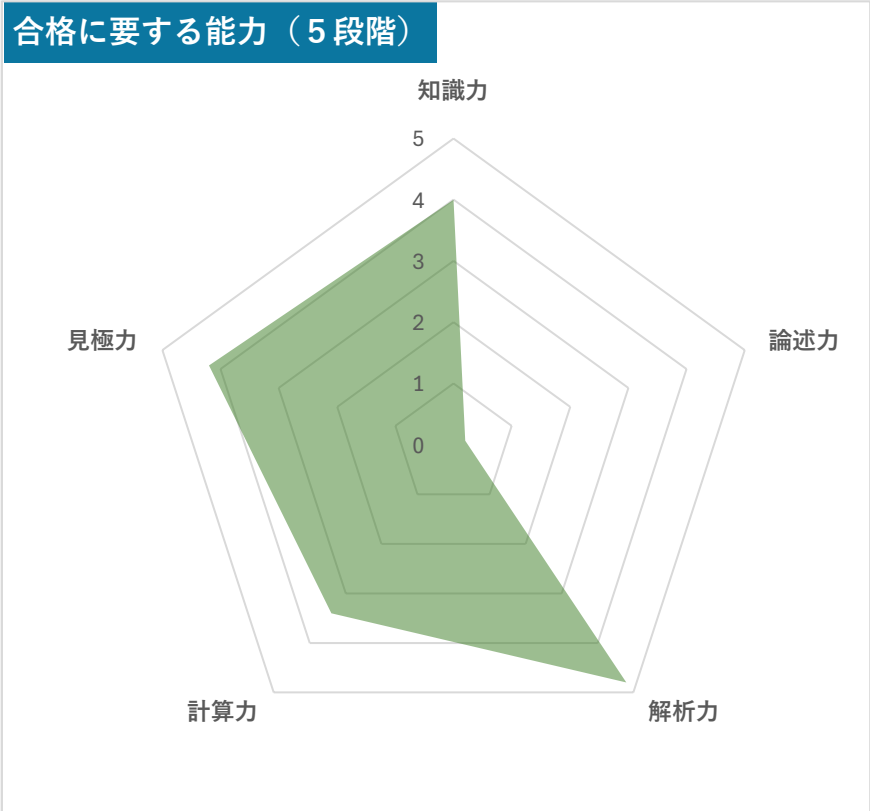


総合分析

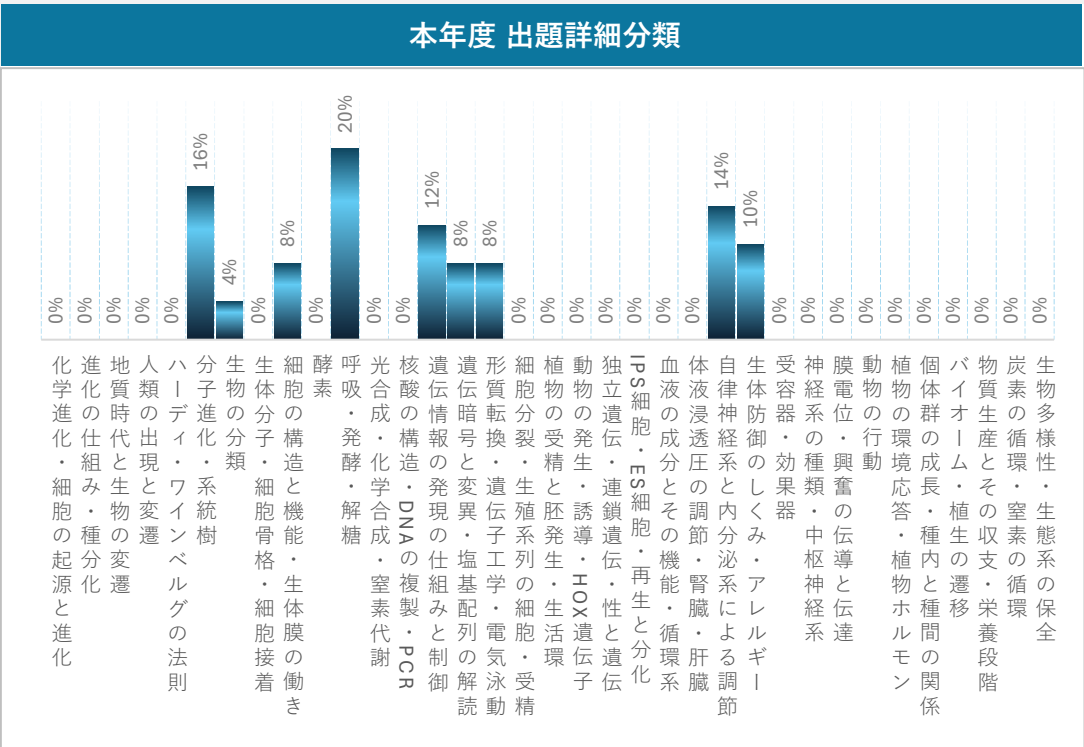
試験区分	一般		
制限時間	60分 (理科 2 科120分)	大問数	全 5 問



出題分野	
系統と進化	20%
生命現象と物質	28%
遺伝子	28%
生殖と発生	0%
生物の環境応答	24%
生態	0%

本年度出題テーマ一覧	
第 1 問	呼吸商
第 2 問	生物の分子進化と系統
第 3 問	血糖濃度の調節
第 4 問	免疫とバイオテクノロジー
第 5 問	遺伝子発現

本年度 解答形式	
	選択肢 100%



合格に要する能力（5段階）		
知識力	3.8	出題分野の幅広い知識を有するか
論述力	0.0	設問の指定に沿って的確に記述する力
解析力	4.6	図表データなどから分析・解析する力
計算力	3.2	式を組み立て、正しく計算する力
見極力	4.0	難度を判断し、適切に時間配分する力

特殊問題の有無	数理生物学なし	生物物理なし	ノーベル賞なし	範囲外問題なし	長文論述なし
---------	---------	--------	---------	---------	--------

特記事項	特になし
------	------

総合評価					
難度	3.2	最難を 5 とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率（予想）	64%
分量	66分	完答に要する時間（制限時間は60分）	やや多い	標準	

入試の特徴と対策	▶ データ解析・推理・考察を要する設問が多い試験。
入試から見る大学が求める学生像	標準的な知識で解ける問題から、データの読み取りを必要とする考察問題までバランスよく出題されている。試験時間に対するボリュームは多いため、全体の難易度を見極めてそれぞれの大問にあたる必要がある。小手先の知識のみでは高得点は取れない、ハードな考察問題にしっかりと向き合うことができるかどうか、受験生の素の学力を評価する問題になっている。